

池上本門寺靈宝殿 特別展

題目板碑と宝塔

～中世池上の法華信仰と供養～



①



②



③



④



⑤

弘安5年(1282)10月13日、日蓮聖人が池上の地で御入滅あそばされた後、当山は鎌倉時代から室町時代にかけての“中世”と呼ばれる時代を通して、東国の日蓮宗における本寺として発展を遂げました。その後の度重なる火災や戦乱により、仏像や古文書などの中世資料のほとんどが失われている一方で、石という恒久性のつよい素材からなる石塔は、地中に埋もれたり、あるいは破損したとしても、姿を留めているものが多くあり、その存在は古くから注目されてきました。特に、お題目「南無妙法蓮華経」を主尊として刻む題目板碑については、日本最古の題目板碑として名高い正応三年(1290)在銘品(大坊本行寺蔵)をはじめとして、池上山内に100点以上が現存しており、中世における当山の歴史・信仰を語るうえで欠かせない資料となっています。

この度の展示では、池上山内の主要板碑を、歴代聖人のご本尊とともに一堂に展覧し、室町時代に造立された宝塔も加えて、中世の池上において法華信仰のもと行われた様々な供養のすがたを紹介いたします。

最後になりますが、本展示にあたり貴重な寺宝の借用・展示を快くお許しくださいました所蔵先の皆様、ご協力くださいました方々に感謝申し上げます。

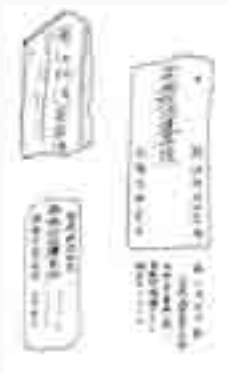
平成25年10月25日
池上本門寺霊宝殿 館長 野坂法雄

| | | |
|--|----------------|----|
| 1 | 池上の板碑調査の歩み | 1 |
| 2 | 中世日蓮教団と題目石塔の展開 | 3 |
| 3 | 池上に所在する題目板碑の概要 | 5 |
| 4 | 池上の題目板碑 鎌倉時代 | 7 |
| 5 | 池上の題目板碑 南北朝時代 | 11 |
| 6 | 池上の題目板碑 室町時代 | 13 |
| 7 | 法華信仰の宝塔 | 16 |
| 8 | 題目五輪塔 | 19 |
| 9 | 中世石塔の終焉、そして近世へ | 20 |
| 付編 水晶五輪塔(21) | | |
| コラム 鎌倉の題目板碑(10)／阿弥陀種子と銘文が消された板碑(15)／題目板碑に刻まれた偈文(15)／刻まれた題目書体の変化年(15) | | |

- ・本書は平成25年10月25日より11月24日を会期として池上本門寺霊宝殿で開催する特別展「題目板碑と宝塔—中世池上の法華信仰と供養—」の解説冊子である。
- ・本書の掲載順および内容と展示内容は必ずしも一致しない。
- ・本書所収の板碑実測図・写真は縮尺1/8とし、その他の石塔は任意とした。
- ・本書所収品を含む池上の板碑・石塔の詳細は『池上本門寺歴史的石造物の調査Ⅱ』(近刊予定)を参照願いたい。
- ・本展の企画・構成、本書の執筆・編集は本間岳人(霊宝殿学芸員)が担当し、安藤昌就(同主事)が協力した。

1 池上の板碑調査の歩み

池上に所在する板碑の記録は江戸時代中期からみられるが、本格的な調査が進んだのは昭和10年代後半以降のことである。それを担ったのが二人の研究者、久保常晴と千々和實であった。現在、日本最古の題目板碑として知られる大坊本行寺の正応三年(1290)銘板碑も、彼らの手によって報告され、その評価が定められていった。



江戸時代に記録された本門寺の板碑

安永8年(1779)頃『武蔵野古物』所収「本門寺古碑」として3基の題目板碑が集録されている。右のものは長さ1尺5寸(約45cm)で「右法比丘尼也／永徳元年(1381)八月」在銘で「本門寺裏門道ノ百姓卵塔場ニアリ」とある。いずれも現存していない。【年表1】



正応三年銘板碑発見記念碑

昭和8年(1933)以降大坊本行寺所在「正応三年建立板碑発見于此即今當山丑寅竹林所在所也大坊四十四世 日量代」と刻まれている。【年表3】

| 年代 | 池上の板碑・石塔関連事項 | 人・機関 | 出典 |
|---------------------------|---|-----------|---------------------------------|
| 1 18世紀後半 | 板碑が記録される | 加賀美遠清他 | 著者不詳『武蔵野古物』(1779年頃)加賀美遠清『集古一滴』 |
| 2 昭和3年(1928) | 天正十四年銘(現所在不明)を含む板碑が記録される | 中島利一郎 | 『板碑』『考古学講座』第19巻 |
| 3 昭和8年(1933)～昭和13年(1938) | この頃、正応三年銘板碑を本行寺北東の竹林より発見か | 本行寺 | 本行寺44世松野日量建立記念碑(本行寺庭園所在) |
| 4 昭和13年(1938) | 正応三年銘板碑を含む在原原の板碑が調査される | 久保常晴 八木直道 | 『豊多摩在原原の板碑』『板碑の研究』(基文叢書第二編)所収 |
| 5 昭和16年(1941) | 日蓮宗による宗宝調査が実施され、正応三年銘板碑が仮宗宝に認定される | 日蓮宗宗務院 | 板碑添付票 |
| 6 昭和17年(1942) | 正応三年銘を含む板碑19点の銘文寸法を公表 | 久保常晴 山本直道 | 『城南六区の板碑』『立正大学論叢』1号 |
| 7 昭和26年(1951) 昭和31年(1956) | 昭和26年に正応三年銘を含む板碑19点を調査、昭和31年に模式図付一覧表として公表 | 千々和實 | 『武蔵国板碑集録1』 |
| 8 昭和27年(1952) | 大坊本行寺火災により板碑数点を破損・焼失 | | |
| 9 昭和40年(1965) | 日朗塔および近世初期墓標の概要と銘文を報告 | 千々和實 | 『金石』『大田区の文化財』第2集 |
| 10 昭和40年(1965) | 正応三年銘板碑を題目板碑最古に位置付ける | 久保常晴 | 『題目板碑の研究』『立正大学人文科学研究所年報』第3冊 |
| 11 昭和48年(1973) | 大田区内所在板碑を悉皆調査し全点の拓本を報告。本行寺42基、本成院1基、法養寺2基が集録され、全国の題目板碑の最古10例を示す | 千々和實 | 『大田区の板碑』(大田区の文化財第9集) |
| 12 昭和50年(1975) | 近世初期石塔を歴史的に位置付ける | 千々和實 | 『本門寺近世石塔が示す江戸首都化の標識』『史誌』第2号 |
| 13 昭和53年(1978) | 本行寺43基、本成院1基、法養寺2基、本門寺2基(現不明)、嚴定院3基の銘文寸法を集録 | 千々和實(団長) | 『東京都板碑所在目録(23区分)』東京都教育委員会 |
| 14 昭和60年(1985) | 大田区の板碑に関する総括的な記述がなされる | 千々和到 | 『第6節 板碑とその時代』『大田区史』通史編上巻 |
| 15 昭和63年(1988) | 近世初期墓標の実測図および板碑2基の報告 | 岡本桂典 | 『東京・池上本門寺の墓標調査(予報)』考古学研究室叢報第24号 |
| 16 昭和64年(1989) | 日朗墓塔の詳細な調査が実施されるとともに、宝塔周辺から板碑2基が出土する | 大田区 | 『昭和62年度 遺跡発掘調査報告』(大田区の埋蔵文化財第9集) |
| 17 平成24年(2012) | 11の増補改訂版。本行寺63基、本成院2基、法養寺2基、本門寺22基、嚴定院3基を集録 | 大田区 | 『大田区の板碑集録』大田区の文化財第39集 |

【年表】池上の板碑・中世石塔調査の流れ